

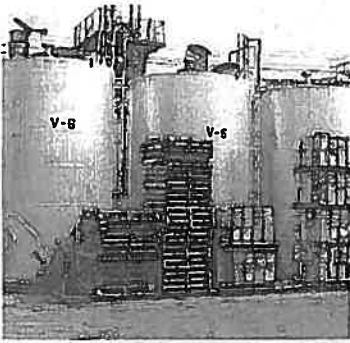
東亜オイル興業所

インドネシアで廃油再生

15年度から精製して重油・軽油に

廃油再生の東亜オイル興業所(千葉県八千代市、碩孝光社長)は2015年度からインドネシア(東カリマンタン州)で廃油の再生処理事業を始める。建設機械のエンジンオイルや変圧器の絶縁オイルを精製・浄化して再生油として市場で販売する。廃油の不法投棄による環境破壊などが懸念されており、日本で培った技術を現地に生かす。

東亜オイル興業所の廃油再生プラント(千葉県八千代市)



現地のタンク洗浄会社「PLK」(PT. Pajalejo Limbah Kutai Kartanegara)社から遊休地を借り受け、14年末に廃油再生プラントを建設する。設置するプ

ラントの廃油処理能力は月1000ト。回収する廃油の9割はエンジンオイルで、残りが変圧器の絶縁オイルの見通し。エンジンオイルは重油や軽油に精製し、1リットルあたり62円程度で販売する。一方の絶縁オイルは、コンクリート部品製造時の剝離剤として製品化し、同200円程度で販売する計画。売上高は15年度で7億円を見込む。

東亜オイルの海外での廃油再生事業は、新エネルギー・産業技術総合開

発機構(NEDO)の実証事業として採択を受けている。実証期間は13、14年度の2年間で、事業費は約3億円。廃油回収の構築やプラントの稼働、再生油の品質確保、事業性などを評価する計画だ。

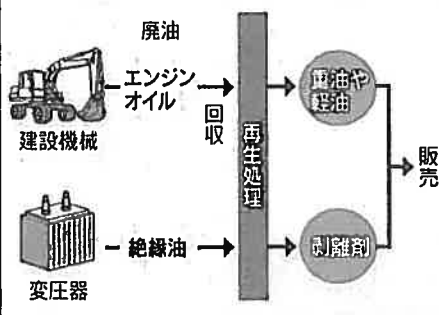
東カリマンタン州では、建機車両が多く稼働しているが、廃油処理の

は、セメントを型に流し込むときに型の内側に塗る。コンクリート製品を型から抜き出しやすくなるほか、製品の表面をなめらかにできる。現地では軽油が使われているが、製品の表面が着色するなど課題があった。インドネシアには日系のゼネコンも多く進出していることから、同社は日本と同じ剝離剤を使いたいという需要にこたえる。

東亜オイル興業所は1968年設立。自動車の

販売店やサービスステーションから廃エンジンオイルを回収して再生販売する事業を展開してきた。国内での自動車販売台数やオイルの取り換え回数が減少していることから、海外への進出を検討してきた。

東亜オイルの廃油再生事業



コンクリートの剝離剤

東亜オイル興業所は1968年設立。自動車の

販売店やサービスステーションから廃エンジンオイルを回収して再生販売する事業を展開してきた。国内での自動車販売台数やオイルの取り換え回数が減少していることから、海外への進出を検討してきた。